

おおさか AALA

非核・非同盟・平和・友好・連帯

今月の読み物

◇2面:歴史の逆流 時代の分水嶺を読み解く」を読む ◇3面:辰巳コータローさん(会員)立候補にあたって ◇4-5面:韓国への旅 ◇6-7面:600号に寄せて・その2 ◇8面:常任理事会の報

〒540-0004 大阪市中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F
2023年3月1日 No. 601



落語で盛り上がった新春のつどい

大阪AALA カンボジアツアー報告 & 新春のつどいを開催しました

2月19日(日) 高津ガーデン

寒さも緩んだ当日は雨模様でしたが、17名が会場に足を運んでくれました。

開会には上村副理事長のあいさつで始まり、プロジェクトリーダーを使った4人がリレー式に報告しました。

最初に、カンボジア外務省 ASEAN事務局で、日本AALA代表団が1万筆以上の平和署名を渡し、外務省職員と懇談したこと、その後訪問したカンボジア独立メディアセンターとの交流の様子などの報告が粕谷さんからありました。

次に堀内さんから、ポルポト政権時代の大量虐殺(内戦)の資料館「キリングフィールド」とトゥールスレン収容所博物館、そして地雷除去平和博物館、アキ・ラー地雷博物館など、為政者による自国民虐殺の歴史に向き合いながら、過去の負の遺産を未来に生かそうとしているカンボジアへの期待が話されました。

カンボジアツアー4日目は丸一日かけて巡るアンコール遺跡群で

す。西野卓二さんからは、カンボジアの歴史と文化に触れたことが語られ、アンコール・ワットとアンコール・トムの歴史遺産の壮大さが参加者にも伝わってきました。

西野敏恵さんは、琵琶湖の何倍もあるというトレンレサップ湖のベトナム難民の水上学校で子どもたちと交流したことの報告とともに、もつと難民の子どもと交流できる方法と時間がほしかったとの感想もありました。

第二部では、「新春のつどい」として、天神亭神山(かみさん)が落語「ちはやぶる」と「桃太郎」の2題を披露してくれ、会場は笑いで盛り上がりました。

つづいて参加者から、カンボジアについての質問や自分の思いなどの発言がありました。

そのあとに、長谷川理事長のまとめのあいさつがあり、「つどい」は閉会となりました。

コロナ禍ではあるものの、久々に飲み物やお菓子付きのつどいで楽しく過ごした3時間でした。

「歴史の逆流」時代の分水嶺を読み解く（朝日新書）を読む

— 長谷部恭男（憲法学者）、杉田敦（政治学者）、加藤陽子（歴史学者）の鼎談 —

小林 保夫（弁護士） 寄稿

鼎談の参加者の3人は、それぞれの専攻分野で評価の高い、高名な専門家です。長谷部教授と杉田教授は、常々、朝日新聞の紙上で、時代の提起する今日的な政治的・社会的問題について、深い学問的造詣を踏まえた貴重な切り口で鋭い指摘をされ、警世の発言を行っておられます。

また加藤陽子教授は、日本の現代史の専門家で、「それでも、日本人は『戦争』を選んだ」という著作で名を馳せていたところですが、先般菅内閣によって、理由を明かさないうまま日本学術会議の会員の任命を拒

否されたことで、にわかには時の人として注目を浴びることになりました。

さて、この鼎談は、昨年オンラインで行われた内容を編集して、年末に発行されたものです。

私には、私たちが直面する今日的な問題について、多くの深い洞察や鋭い視点を提供していると思われ、きわめて興味深いものでした。

その内容を紹介します。

1 説明しない政治

安倍、菅、さらに岸田の各政権については、引き続く自民党の多数を頼んで、国会と国民を無視して行われる「説明しない政治」、「説明責任を意識しない政府」として、鋭く批判されます。

その切り口は、憲法との関わり、歴史の教訓、安部元首相等の学問体験の欠如などの見地を踏まえて鋭く分析し、批判します。

杉田教授は、「私は、菅内閣は『見ざる、言わざる、聞かざる』の政権だったと思います。まず、現実を見ない。そして理由を説明しない。さらに質問や批判に耳を傾けない。これが菅さんの姿勢です。ある種閉じこもって、外界を遮断していたわけです。きちんと国民とコミュニケーションしないだけでなく、そもそも前提として、見たくない現実は見ない。

報道によれば、コロナ対策などについて、自分の気に入るようなデータを持つてきなさいと下の人に言うので、そういうデータしか上がってこなかった。見たいデータ、聞きたい話だけで判断していたとしたら、危機対応という点で非常に危険な内閣だったと言えるでしょう。」と述べます。

そして鼎談は、安倍、菅、岸田各首相の政治家像の特徴にとどまらず、コロナ対応をめぐる「公共の福祉」や「緊急事態」についての理解、国会審議のありかた、改憲問題などについて、わが国の歴史の教訓、

外国の対応との比較に及んで、きわめて興味深い論議が展開されます。

2 2割が動かす政治

日本の現在の政治は、有権者の20%で当選する小選挙区制などの選挙制度に基づいて、「今のままでよい」という人が多く投票に行くわけですから政権与党が勝ち続けていく」という状況にある、日本の最大の政党は「無党派」であり、イギリスのような自主的な政治的判断力、決定力を持つ国と違って国民の政治的関心の低さとその危険性が指摘されています。

長谷部教授は、今日の「小選挙区比例代表並立制」の危険性を指摘した上で、「『自分一人の一票で政治が代わるものか』と諦めて投票しない有権者が多いとやはり風は吹きません。そういうふうにはみんなが思い込んで、それこそ選挙に行かなくなったら、もう民主政治はおしまいです。少数の利益集団に政治を壟断されて、みんなはそのもとでただ暮らしていくしかないという事になります。」として、投票に行くことを勧めます。

3 戦争と侵略を考える

ロシアは、2022年2月24日突然ウクライナへの侵略を開始しました。

この攻撃に対するウクライナのたたかう決意について、長谷部さんは、「ウクライナの国民にとって」戦われないことが何を意味するのか。それは、ロシアの属国になることです。ロシアは名ばかりの選挙で独裁者が居座り、抗議する人を暴力的に抑圧する国です。選挙結果をごまかし、独裁者とその取り巻きの国の大部分の富を独占する。ウクライナはそういう『政治体制』の国になっていいのかという話なんです。だから、戦って、ヨーロッパ型の真つ当な議会





この続きは次号に掲載
します。

制民主主義国家になる決断をした。ゼレンスキーの言葉 (To be or not to be) というシェイクスピアの言葉を引用し筆者注記) そうした意味で理解するべきだと思います。それは、政治体制の選択という国のあり方にかかわる深刻な問題であり、他がとやかく言うべきものではなく、「決めるのはウクライナの人たちです。」と述べています。

そして議論は、明治以来の日清戦争、日露戦争、中国への侵略戦争、第二次世界大戦に及び、日本の政治体制についての選択の問題を 私たちに提起していると思います。

ウクライナ問題についての日本を含む国際社会や私たちの見方・関わり方について考える多くの視点を教えてくれます。

大阪AALAのみなさまへ

立候補にあたっての決意

みなさまこんにちは。大阪AALAの会員として、いつも楽しく拝読している機関紙でご挨拶させていただけること、とてもうれしく思います。

私は、1月7日、「明るい民主大阪府政をつくる会」との「確認書」に調印し、4月9日投票開票の大阪府知事選挙に立候補する決意をしました。

そして、出馬会見以降、たくさんの方の励ましの言葉、喜びの言葉をいただいています。

「10年以上続いてきた息苦しい維新政治を終わらせてほしい」、そういう強い思いに応えられるよう、全力で頑張つてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



広範な府民との連帯と協働で
カジノ誘致ストップ、維新の悪
政を転換させる！

今、大阪に何より必要なのは、府民の命最優先の政治”です。無謀なカジノ誘致をストップし、命と暮らし、中小企業支援、教育現場を支える政治です。

コロナによる死者が東京の1.6倍にのぼる大阪ですが、なぜ、これほどコロナの死者が増えてくるのか。カジノ誘致に突き進む現府政は、コロナ対策や医療・介護・教育現場への対策をおろそかにして、「救える命を救えない」と苦悩する現場への支援を怠つてきました。

吉村知事は医療崩壊について何一つまともな説明をしていません。それどころか大阪にカジノをつくることに邁進しています。

人の不幸を踏み台にして大阪の経済が成長することなどあり得ない

いことです。カジノと一緒に大阪を沈ませるわけにはいきません。大阪は中小企業のまちです。減らされてきた中小企業支援の予算を拡充することこそが求められています。

大阪をこんなにも息苦しい街にした大もとは、公務員と府民を対立させ、生活困窮者と府民を分断してさせる“維新政治”の悪政があります。府民に、自己責任、受益者負担を押しつける、そんな政治は一刻も早く転換しなければなりません。

私は、広範な府民のみなさまとの連帯と協働で新しい府政をつくりたい、そういう強い思いで知事選挙に臨んでいます。

大阪AALAは、日本国憲法を守り活かすため非核・非同盟・中立の日本をめざしています。また、非同盟諸国と連帯して、核兵器や軍事同盟をなくし、平和のためすべての国が平等に参加できる新しい世界秩序をめざして運動をすすめています。

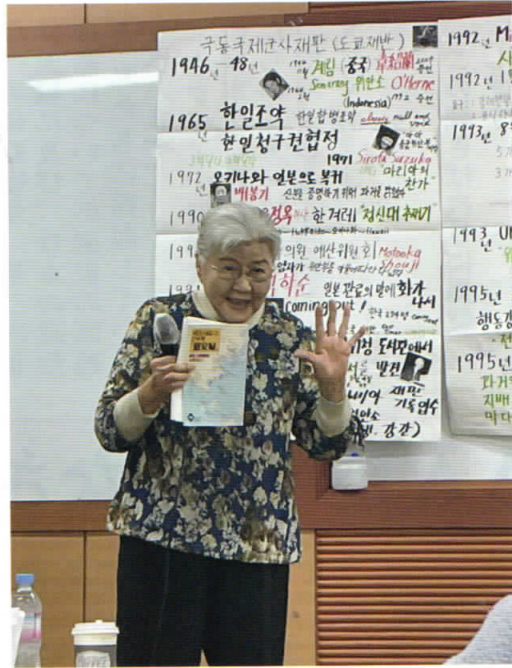
私もその一員として、皆さまに、心からの敬意をこめて連帯のご挨拶とさせていただきます。

2023年2月

明るい民主大阪府政をつくる会

たつみコータロー

コロナ・パンデミック
最中の韓国への旅
2022年11月
米澤 清恵 その1



米澤先生の情熱講演

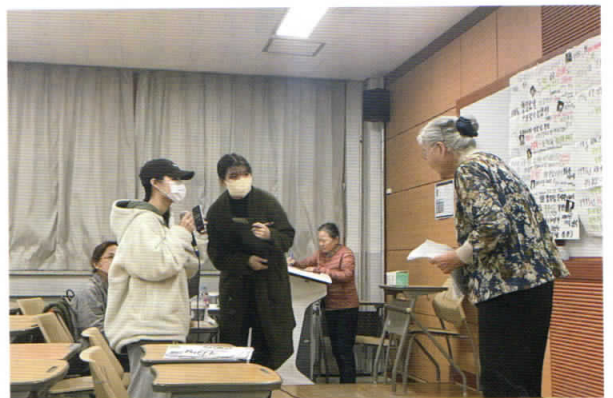
金学順さんの勇気と
サポーターの人権運動

また、私が「慰安婦」問題に惹かれて運動する理由の一つに、被害者とその周りのサポーターする人々、研究者たちの一人の勇気が他の一人の努力を引き出し、又その努力の結果が次の人の前に進む一歩になっていることがある。例えば、1970年代、

解決への道の攻防

このような歩みを全て述べる紙数がないので割愛するが、名乗り出た被害者たちの生き直しをかけた裁判は10件のうち8件が高裁で被害事実が認定された。私は『日本の裁判所が認めた「慰安婦」というブックレット』を示して被害者たちの闘いが日本の政府や裁判所に被害を公式に認めさせたことを強調した。国連人権委員会

の勧告、2000年の女性国際戦犯法廷での昭和天皇有罪判決、日本の自治体や米議会EU議会などの「慰安婦」問題解決に向けた意見書・決議、など人々の努力で解決に向かう機運の中、一方で2007年に軍の強制を否定す



内閣による「河野談話」見直しの試みなど攻防が繰り返されていくことも伝えた。

2015年の安倍・朴槿恵の日韩合意は国家の費用で10億円を財団に出すが、被害者抜きで合意だったことなど、日本政府は日韓請求権協定・国民基金・日韓合意と

これまでの歩みを年表に

1946年に始まった極東裁判から2019年「主戦場」の映画と裁判の結果までを模造紙に年表にして掲示をした。デジタル社会の韓国の学生は笑うかもしれないと思ったが、彼らは実に友好的で私の拙い韓国語を目的に笑みをもって一生懸命聞いてくれた。

戦後77年も経つのに被害者が望む謝罪と賠償が得られなかった。これを聞いて金学順（キム・ハクスン）

また、私が「慰安婦」問題に惹かれて運動する理由の一つに、被害者とその周りのサポーターする人々、研究者たちの一人の勇気が他の一人の努力を引き出し、又その努力の結果が次の人の前に進む一歩になっていることがある。例えば、1970年代、

このように一人の勇気が次々と人権擁護の運動を一歩一歩と進めてゆく歩みは感動的だ。



韓信大学での「慰安婦」問題の講演

は果たすことができた。まず「慰安婦問題」の講演について報告します。

姜先生から先生の授業二コマを私の「慰安婦」問題など話す交流の時間にすると連絡が来た。学生に配るレジメを送ったところ先生から「あなたの闘争史だね、感動した」と返事が来て講演料も出るようになった。

日韓交渉における日本政府の「歴史認識」

者が望む謝罪と賠償が得られないのか、日本と韓国の言い分はなぜかみ合わないのか、国際的な動き、日本の動きはどうか。今後どうしてゆけば良いのか、等を念頭に年表に沿って話した。

正確に事実を話すという点で言えば、例えば、極東裁判では中国桂林やインドネシア・ジャワ島での女性に対する暴力や強制連行についてレポートがあがっていたにも拘わらず、当時の女性に対する暴力に対する意識の低さにより訴因にならなかったこと、日韓条約の締結時、植民地支配にいたる両国間の協定・条約は無効と記する際、たった1語 already(もはや)を入れることで植民地支配の当時から無効だったとはならず、日韓請求権協定で賠償でなく経済協力という形でお金が支払われたことを確認した。この経緯は韓国人が最も悔しい思いをした点であり、日本との関係で繰り返されることを警戒、トラウマになっている点でもあるので丁寧な説明が必要だ。(姜先生が朴正熙について補足)



姜先生



た金学順(キム・ハクスン)さんが初めて「慰安婦」被害者として名乗り出た。この勇気ある発言にフイリピン、オランダ、07年に軍の強制を否定する日本の有志国会議員らのワシントンポストへの広告や2012年ごろから安倍



授業が終わってみんなでパチリ

人たちが起こした裁判は彼らが敗訴するところまできたと話した。(学生さんの反応は次回に続く)

機関紙おおさかAALA
A600号に寄せられた
声です。前号に載せ切
れなかった方のものを
引き続いて紹介します。

大志をもって仲間を
増やそう

よしせ 孝子

『大阪AALA創立60周年、皆さんご同慶の至りです。私は1999年AALAに参加させて頂いたので23年になります。1963年5月創立の大阪AALAは、50周年には記念誌でその歴史をまとめましたが、あの頃の沢山の貴重な先輩方々がすでに鬼籍に入られました。今改めてその遺業を引き継ぐ重大さをかみしめています。2015年の

安本法制強行、昨年末の岸田内閣の安保3文書の閣議決定でいよいよ「戦争か平和か」の歴史的岐路に立つ2023年を迎えました。私は1932年生まれ、まさに戦時一色の中で育ちました。1938年4月「国家総動員法」公布は小学校入学の日。それ以来生活物資は配給になり、国民は窮乏生活を強いられ、全てが戦争へ戦争へと進み、1940年には全政党が解散し大政翼賛会へと突き進み、国土は焦土と化しました。いま、ロシアのウクライナ侵攻、北朝鮮のミサイル発射などを口実に「攻められたらどうする？」と一斉にメディアが叫び「軍事増強やむなし」の世論が作られたらどうすることに、戦前のあの頃と同じ危うさを感じて、いてもたってもおれない気持ちです。あの頃と何が違うのか。『憲法がある。9条がある。国民の運動がある。平和・自由・民主主義の正論を主張する政党がある。そして超大国が支配する世界は変わり戦争は違法化され、核兵器禁止条約が発効した。』ASE

ANに学び『戦争するな、どこ国も』の署名運動を進めてきた私たち、AALAが進めてきた非核・非同盟・平和・友好・連帯の運動こそ出番の年。今年こそ大志をもって仲間を増やし更に大きく運動を広めましょう。



事務所での学習会風景

懐かしい機関紙編集
委員時代

和田 鈴江

大阪AALA機関紙600号、おめでとうございませう。

私は機関紙の編集委員を3年余り経験、当時を懐かしく思い出します。

1988年、大阪AALA主催「アパルトヘイトを考える夕べ」の実行委員会に入り。その後20数年は名ばかり

会員で、退職後に機関誌発送作業に参加。当時はB5版8ページで帯封を糊付けしていました。

2014年3月から編集委員会の一員に。4月から表紙と会員交流の「旅のページ」を事務所でカラー印刷、「ゆうメール」で発送となりました。2016年8月号からはインターネットでの印刷業者依頼に。多くの会員の方々のご協力があつての機関紙、毎月、無事に会員・読者に届けられる喜びと共に、「カラーもきれいで読みやすい」とか「綴っています」とかの感想をいただく、もつと頑張ろうと思えるのです。発送作業中でも、ティータイムでおしゃべりする中でも、お互いの信頼がより深まり楽しい時間となった事も重要でした。

2015年1月、「女の平和」国会ヒューマンチェイン、赤いものを身に付け、次から次へと集まって国会を包囲する7千人の女性たち。たまたま東京にいた私は、ちよつとした記者気分、色んなグループに話を聞いたり写真を撮ったりしました。マイクをもった湯川れい子さんは2月号の表紙に。

また、同年7月、54年ぶりに米国と国交を回復したキューバ、9月26日は大阪AALA主催の駐日キューバ大使の講演会が大成功。わずか数日後には編集長の頑張りで機関紙全ての原稿が完成。10月3日の日本AALA第52回定期大会で全国の仲間を読んでもらおうと、前夜ギリギリまで印刷し、資料を合わせて100部セット。3日の早朝に事務所に寄つて、両手に抱えて新幹線に飛び乗ったものです。タイムリーな企画の成功と、素敵な写真で充実した内容の機関紙をとつても誇らしく思いました。

集荷時間の改悪や郵便料金の値上げ等、当時より困難な状況ですが、日本を変えようとする私たちの運動と世界をつないでくれるAALA機関紙に、これからも期待しています。



ウクライナ侵略を利用した憲法違反の大軍拡は許さない

大阪AALA会員・大阪
平和委員会事務局長
上羽治雄

【抗議行動を展開】

ロシアの侵略に対し、大阪平和委員会はいち早く府民に呼びかけ、2月28日在大阪ロシア総領事館前で「ウクライナに平和を」の横断幕をかかげ120人の参加で抗議のスタンディングを実施し、ロシア軍の攻撃で亡くなったウクライナの人々に黙祷を捧げました。これはマスクミでも報道されました。この後も毎月5次におたり5人〜83人の参加者でスタンディングを実施しました。さらに、5月22日には大阪革新懇と一緒に3名の在阪の学者を招いて「平和外交シンポ」を119名の参加で成功させ、そこで寄せられたウクライナ支援カンパ6万円を国際赤十字委員会（ICRC）に寄付しました。

【惨事便乗の大軍拡】

岸田内閣はロシアのウクライナ侵略に対し、憲法9条をもつ戦争被爆国として「核兵器を使うな」「紛争の平和的解決を」の声をあげるどころか、安保3文書を閣議決定し「敵基地攻撃能力」保有や軍事費大幅増額（従来対GDP比1%程度だった「防衛費」を2%以上に）という大軍拡路線に踏み出そうとしています。

これは、明白な憲法9条および国際法違反となる先制攻撃の準備に日本が着手する可能性をほらみ、一貫して「専守防衛」の範囲内で抑制的に安全保障政策を組み立ててきた戦後日本の「平和国家」としてのあり方を根本的に破壊するものであり、断じて認めることはできません（平和新聞より抜粋）



【岸田内閣の打倒を】

ウクライナ侵略を前に世論調査では、敵基地攻撃能力の保有に賛成が6割、反対が3割。その背景に覇権主義的な動きを強める中国、過去に前例のない頻度で弾道ミサイル発射をしている北朝鮮、そして国際秩序の根幹を揺るがすロシアの存在があります。戦争する国づくりをすすめる岸田政権を倒し、憲法9条を守り平和外交に徹する日本に変えなければなりません。



憲法無視の岸田内閣は恥ずかしくはないのか

中津川 真人

国会議員はこぞつて岸田内閣不信任決議案を提起すべし。「敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有」は外国の領土・領海等にミサイル等によ

直接攻撃を仕掛ける軍事力を保有し、戦争する準備をすることで、明確に日本国憲法に違反しています。憲法の基本理念である平和主義を逸脱する亡国論です。憲法を遵守すべき政府のあるべき姿ではありません。何ら外交努力も示さず、国民に事前説明もありません。岸田首相は恥ずかしくはないのか。

ロシアのウクライナ侵略、北朝鮮の執拗なミサイル実験、台湾有事と、日本が侵略される危機にあるがのごとく、政府はマスクミを通じて喧伝し、防衛費を増増してアメリカの戦争戦略に加担する。今、何処の国が日本を侵略しようとしていますか？

岸田内閣は、国民に危機幻想をばらまき、国民を騙して、憲法を無視してまでも軍事力を異常に増強し、米政府（米国防産産業）の要求のままに、国民からの生活資産の収奪を目論んでいます。対岸の火事を喧伝して国民から富をかすめ盗る、言わば「火事場泥棒」に似た所業です。

米・中による「新冷戦」が始まろうとしています。軍事力抑止論は互いに軍事力強化の競争に陥り止まることなく、必ず国民が疲弊し遂には戦火をまみえて国が荒廃します。

「軍事力を背景に外交をしなければ相手の言い分に負けてしまう」自民党右派の議員の弁があります。こういう人達には、日本国憲法を前文から読み直しなさい、と言いたい。大事なのは軍事力ではなく「国力」民の力です。国をあげての生産力であり国民の生活力であり、困難を乗り越える智慧であり文化の力です。

日本は現行憲法の下、繁栄と平和を築き世界の国々から信頼を得、羨望される国であり続けています。この日本を、アメリカ軍の前線基地としてアメリカと共に戦争する国にしようとしています。七十六年間の「平和へのこだわり」を投げ捨てるのか。そんな権限は岸田内閣にはありません。内閣・国会・裁判所は、国民と共に平和憲法を遵守する義務があります。





2月20日 米軍艦の大阪港入港に反対する緊急抗議行動に参加しました

強襲揚陸艦は10時頃沖合に小さく姿を見せ、埠頭に近づくとつれ、たちまちその巨大なグレーの船体として迫って来て、埠頭間に全長二百数十メートルに及ぶ巨体の側面を現しました。軍港とは無縁の、食品コンテナが集結する穏やかな大阪港の一面に突然巨大な鎧兜をまとった「戦争」そのものが海上に横臥し威嚇しているような異様な緊張を覚えました。

安保3文書に「既存の空港・港湾等を運用基盤として、平素から訓練を含めて使用する」ためであり、まさに日本を米軍に従い「戦争する国」に向かわせる地ならしの一つだと言えます。

抗議行動にはコータローさんも駆けつけ、マイクを握りながら訴える力強さに、参加者全員が大いに励まされたことを付け加えておきます。

小松靖昌

第6回常任理事会の報告

大阪AALA第6回常任理事会が、2月14日(火)18時から大阪AALA事務所で開催されました。会議の内容のうち、今後の取り組み部分を中心に報告します。

(1) 第9次国際署名

大阪AALAの目標は
個人署名 3000筆、
団体署名 100筆 です。
昨年は、個人署名2000筆余り、団体署名41筆を集めました。今年もみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 会員と読者ふやし

4月以降の新会員5人、しかし4月以降の退会者15人です。友人・知人へ入会の呼びかけをお願いします。

(3) 会計からの報告

みなさんの協力で会費の納入状況は改善してきていますが、会員の減少などで財政の厳しい状態は変わりません。「組織強化募金」も引き続きお願いいたします。

(4) 次回の会議

次回常任理事会(第7回)は3月14日(火)です。
第4回理事会を4月19日(水)午後6時から大阪AALA事務所で行います。

(5) 今年度の総会は5月28日(日)を予定しています。

文化欄

川柳

戦争準備甘く見てたら焼け跡に
大阪カジノ暮らし経済沈下させ
美ら島に基地建設は負の連鎖

大阪市旭区 近藤 正

岸田首相専守防衛蹴つ飛ばす
プーチンはニヤリと笑い兵送る
過去にしちやならぬ戦争ニュース増え

大阪府四條畷市 西川 寛

敵基地を攻撃すれど味方餓死
なにわ津の底なし沈下夢も消え
台湾の有事の一声武器が売れ

大杉 晃

大阪AALA主催 緊急学習会のお知らせ

突き進む「岸田政権の
大軍拡と戦争国家づくり」

お話し 長谷博之さん

(大阪安保・事務局)

とき 3月14日(火)15時〜17時
ところ 大阪AALA事務所

資料代 500円

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) ※入会金 500円
*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。
*会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします。

大阪AALA
へのお誘い



Osaka

発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

